

吉村会長のCoffee Break

第7回 世界水フォーラムとカップパドキアの思い出

トルコの首都イスタンブールで「第五回世界水フォーラム」が開催（2009年3月）され世界192カ国から約3万人の参加、各国のVIP（国家元首や閣僚）95名の出席で開会式が盛大に行われた。日本の皇太子殿下（当時）は「水との共生、水と災害」をテーマに基調講演、盛大な拍手が巻き起こった。毎回「世界水フォーラム」に出席している筆者は、今回は妻を同伴、会議の合間に、世界遺産「アヤソフィア」、「トプカプ宮殿」を見学、世界会議終了後には、かねてより訪れてみたかった世界遺産「カップパドキア」に向かう。

カップパドキア・恐怖の物語

会議終了後、イスタンブール空港からカイセリ空港行きの国内線に搭乗、約1時間15分のフライト予定。着陸寸前に「トルコ語だけの放送」があり着陸、乗客がロビーに集まり始めた。私は事前に手配をしていた「英語の判るガイド」を探したが、ロビーには見当たらなかったのも、「探して来る」と妻に告げ、ゲートから外へ出た。「やっぱり未だ来てなかった」と妻に告げるためにゲートに入った、

その瞬間、軽機関銃を持った衛兵2人にガッチリ、羽交い絞めにされた。妻はロビーの中で真っ青、驚きで声も出なかった。

衛兵はトルコ語で怒鳴っているが、私には分からない、衛兵は乗客ロビーに向かって大声で「誰か英語の判る人いないか?」。そして英語の判る乗客の一人が私に説明してくれた、「着陸予定のカイセリ空港は現在、積乱雲に囲まれ着陸不可なので臨時に着陸した。ここは軍事空港なので、一般人は外へ出ることが出来ない。衛兵の指示に従って、正面玄関から入り、もう一度セキュリティーチェックを受けろ!」と、さらに衛兵に、「この日本人が間違っただけで外に出たが、彼はスパイではない」と説明してくれたに違いない。（多分?）ロビーで妻と無事再会、そして飛行機は再びカイセリ空港に向けて出発し、我々は無事カップパドキアに到着。乗客の中に「英語の判る人」がいて良かったと、改めて英語は世界の共通語だと痛感した。トルコは国境紛争（シリア、イラク、ギリシア、キプロスなど）を数多く抱えている国なので、国家の安全保障、国を守る国家権力の凄さを肌で感じたカップパドキアの旅であった。

（吉村和就/習志野市国際交流協会会長、国連テクニカルアドバイザー）



左) 第五回世界水フォーラム
皇太子殿下（当時）の基調講演
「水との共生・水と災害」（筆者
撮影）

右) 世界遺産 カップパドキアの奇岩
都市

